

(2) 人口高齢化により透析導入患者数の増加が予測される (図表2)

論文の概要

2008～2012年の統計調査論文データを用いて、性年齢階級別透析導入率の経年変化を評価し、透析導入率が2012年のまま不変と仮定した場合の、将来の透析導入患者数を推計した報告である。

タイトル：Anticipated increase in the number of patients who require dialysis treatment among the aging population of Japan

著者：Wakasugi M, Kazama JJ, Narita I

収載：Therapeutic Apheresis and Dialysis 2015；19（3）：201-206

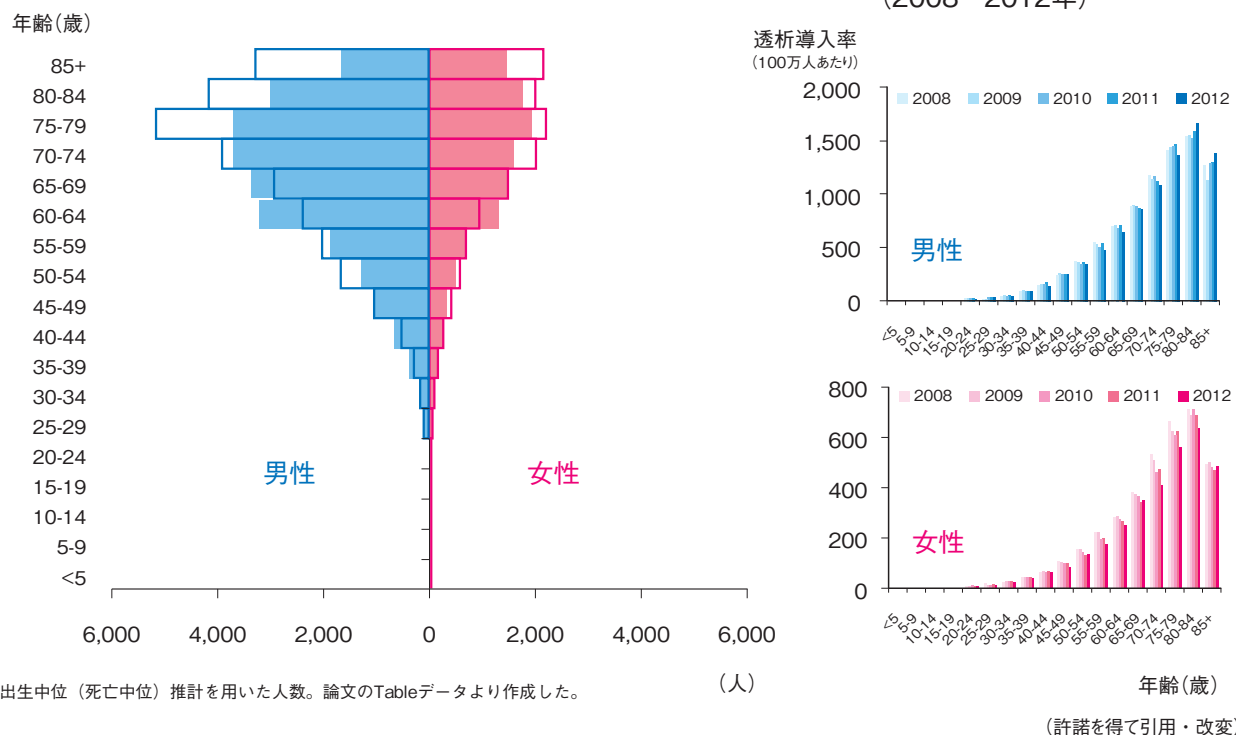
対象：日本国民

要因：性別、年齢

アウトカム：透析導入率

結果：高齢男性を除き、透析導入率は低下していた。2012年の透析導入率のまま不変と仮定すると、2025年の透析導入患者数は41,270人と、2012年導入数（36,590人）よりも12.8%増加し、特に85歳以上の増加率が大きいことが推計された（男性92.6%増、女性62.2%増）。

日本の透析導入患者数，2012年（■）と2025年（□） 性年齢階級別透析導入率の推移（2008～2012年）



解説

高齢化社会に備える資料とするため、2020年・2025年の透析導入患者数を推計した研究である。統計調査の論文データと人口動態統計から性年齢階級別透析導入率を算出し、透析導入率が2012年と不変と仮定した場合の将来導入患者数を、国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来推計人口（出生中位（死亡中位））から推計した。感度分析として、出生低位（死亡高位）および出生高位（死亡低位）推計でも同様の計算を行った。

その結果、透析導入率は高齢男性を除き低下していたが、それを上回る高齢化のため、透析導入患者数の増加が推計された。感度分析でも同様の結果であった。

なお、本研究の推計は透析導入患者数であり、慢性維持透析患者数ではない。そのため、わが国の慢性透析患者数は2021年末に348,873人（90%信頼区間：302,868～401,119人）で最大となり、その後減少に転じると推計された先行研究（透析会誌 2012；45：599-613）と相反するものではない。

本研究は、透析導入率が現状のままでは、人口高齢化により透析導入患者数は増加することを数字で示した研究である。人口高齢化を止めることは困難であるが、末期腎不全発症率をさらに低下させる努力とともに、高齢化に備えた医療環境の整備が求められる。